さまざまな分野に貢献された皆さんを 国や県などが表彰

保坂光治さん
瑞宝単光章受章!

保坂光治さん（今市）が瑞宝単光章を受章されました。

保坂さんは、昭和41年4月に東武鉄道株式会社へ入社し、平成20年3月、小川町駅長を最後に退職されるまでの42年間、安全で確実な鉄道の運行に携わり、公共交通機関の発展に多大な貢献をされました。

在職中は、電車や貨物列車の運転士として安全で確実な輸送業務に就かれたほか、助役、駅長を歴任され、鉄道利用者に対するサービスの向上にも尽力されました。東武鉄道を退職後も系列会社で駅業務に就かれ、安全で確実な輸送業務に携わっています。

保坂さんは「42年間という長い間、公共交通機関の業務に携わることができました。お客様の大切な生命や財産をお預かりし、無事故で退職できたことを誇りに思います」と話してくれました。

野辺正男さん
瑞宝単光章受章!

野辺正男さん（上組）が瑞宝単光章を受章されました。

野辺さんは、昭和40年に郵便事務員を拝命。平成17年3月に退職されるまで約40年間にわたり、寄居郵便局で郵政業務の発展に多大な貢献をされました。

この間、ほとんどの年月を郵便集配業務に携わり、町の荒川以北を中心に市街地・桜沢・用土地区のほか、旧花園町までの広範囲に渡り、郵便物の正確かつ迅速な配達等に尽力されました。退職後も約5年間、郵便局の非常勤職員として勤務されました。

野辺さんは「名誉なことで、非常にうれしく思っています。何十年も支えてくれた地元の皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございます」と話してくれました。

彩の国コミュニティ協議会長から

シラコバト賞

日ごろから、住みよい地域社会を実現するため、多くの方々が、長年にわたり実践活動を続けています。

シラコバト賞は、こうした個人や団体に対し贈られるものです。

住みよいふるさとをつくる活動
故福嶋カクさん

福嶋さん（平倉）は、昭和34年に寄居町遺族会に入会し、翌年に同会折原支部長となりました。以後、地区内会員とともに、きれいで住みやすい地域づくりのため、道路やゲートボール場等の清掃・美化活動を長年に渡り実践したことが評価され、今回の受賞となりました。

心のふれあいを深める活動
石橋静代さん

石橋さん（赤浜）は、介護老人ホーム等を訪問し、カラオケ機器操作、話し相手、散歩介助等を行っています。また、児童・生徒を対象とした福祉体験教室の講師として活躍されています。幅広いボランティア活動への取り組みと、明るい人柄で皆に慕われ、地域の模範となっていることが評価され、今回の受賞となりました。

心のふれあいを深める活動
湯本五郎さん

湯本さん（中町）は、町コミュニティ協議会副会長として15年間尽力されました。就任当時から、地域の老人クラブにも所属し、近所の独居高齢者の身の回りの世話を行うほか、近所の公園の清掃もボランティアとして行うなど、地域の模範となっていることが評価され、今回の受賞となりました。

中学生の税に関する 作文

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会では「税を考える週間」にあわせ「税に関する作文」を募集し、優れた作品の表彰を行っています。11月15日に熊谷文化創造館「さくらめいと」で表彰式が行われました。

ここでは、寄居町からの入賞者を紹介します。<敬称略>

寄居町長賞
「税金の大切さ」
河合　広大（男衾中2年）

寄居町教育委員会教育長賞
「税金について」
深澤　陽（城南中3年）

熊谷県税事務所長賞
「税金について」
新井　美貴（寄居中3年）

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会佳作
「私達を守る税金について」
落合　千紘（城南中1年）

関東信越国税局長賞
「祖母の死から見えたこと」

中村　光瑠（寄居中3年）

私の祖母は、昨年の一月、くも膜下出血で亡くなりました。祖母は、糖尿病を患い、足も悪かったので、いつも日中は家の中で一人で過ごし、学校や仕事から帰宅する家族を待ちながら日々、生活をしていました。その日もいつもと変わらない朝でした。

「行ってきます」と言って「うん、行っておいで」これが祖母と交わした最後の言葉、最後に見た顔でした。祖母は、母が帰宅するとトイレで倒れていて、もう意識はありませんでした。母は一一九番にすぐに連絡し、救急車を呼びました。しかし救急車を初めて呼ぶのと、倒れている祖母をどうすればいいのか気が動転し夢中だったそうです。その時、電話に出て対応して下さった消防署のオペレーターの方は「住所と氏名を教えてください。もう救急車は出発しましたよ。安心して下さい。」そこで母は本当に安心し、心がひとまず落ち着いたそうです。その後、救急車が到着し、祖母を担架に移そうとしましたが、体の大きかった祖母は救急隊員だけでは乗せられず、消防車で消防隊員も来て下さり五人がかりで担架に移し救急車に乗せたそうです。しかし、たくさんの人の手をお借りした甲斐もなく病院でその晩、息を引き取りました。

私は、今回の事で救急車の重要性、必要性がとてもよくわかりました。今、救急車を安易に呼び出し使用する人がいることが問題になっています。急を用さないのに病院を見つけるのが面倒、病院までの交通手段・タクシーでは料金を支払わなければならないが救急車なら無料と言った利点。もし、その間にも、一分一秒を競う急患がいたら、それが自分、もしくは家族だったらとしたらとよく考えて欲しいものです。そして救急車を一回出動させると約四万五千円の税金がかかると試算されているそうです。日本では一年間に四六七万回、救急車が出動し、その内の半数が軽症だそうです。この半数の人が使用を控えれば税金が半額におさえられ、急患にも充分に対応できると思います。税金を納めているのだから当たり前の考えは止めて謙虚な気持ちを持ちたいものです。生前、祖母に救急車に乗ってみたいと話したことがあります。すると「ばかだね。乗りたいなんて人はいないよ。乗らないにこした事はないんだから」と言っていました。本当にその通りです。祖母は自分で救急車に乗った事もわからないまま亡くなったのですから。

私は大人になって働くようになったら、しっかり税金を納めたいです。今、この瞬間に困っている人の為、そして未来の自分の為にです。税金を納める事によって安心して生活できる日本のこの制度は大変すばらしいと思います。この制度が永遠に続くために守っていくルールがあると思います。私は、これからもその事をしっかり考えて日々の生活を送りたいと思います。